

20歳以上の女性の方へ 子宮頸がん検診を受けましょう

子宮がんには2種類があり、子宮の入り口にできる**子宮頸がん**と子宮の奥にできる**子宮体がん**があります。原因もかかりやすい人も異なります。

子宮頸がん

ヒトパピローマウイルス(HPV)の感染が原因と考えられており、初期症状はほとんどありません。

【なりやすい方】

- 20歳、30歳代以降
- 妊娠、出産回数が多い
- 性交渉の相手が多い
- 初交年齢が低い
- 喫煙習慣がある
- 局部が不衛生

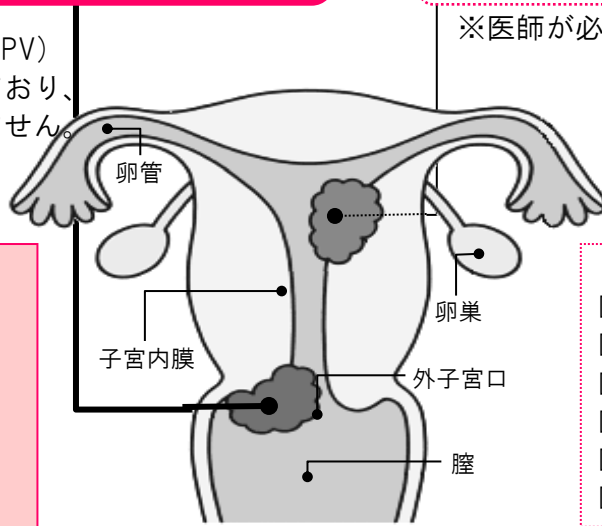
子宮体がん

※医師が必要と判断した方が対象です。

ホルモンバランスの崩れる閉経後に発生しやすく、不正出血がみられることが多い。

【なりやすい方】

- 閉経後の50歳代以降
- 出産経験が少ない
- 高齢出産
- 肥満気味、糖尿病、高血圧
- 卵巣ホルモン剤治療を受けた
- 乳がんや大腸がんを経験



子宮頸がん年齢階級別罹患率



【年齢階級別罹患率2023年（資料：国立研究センターがん対策情報センター）】

【子宮頸がん検診内容】

- 問診～妊娠や分娩歴、月経の状況、不正性器出血などの症状、過去の受診状況等を聞き取りします。

- 細胞診～子宮頸部の細胞をこすり取る肉眼ではわからない初期の病変を発見できます。痛みはほとんどありません。



検診による早期発見がカギ！

初期のがんは痛みなどの自覚症状がないことが多いです。しかし、子宮頸がんは比較的治療がしやすく予後の良いがんですので、早期発見・早期治療が大切です。